（第 12 号様式）

学 位 論 文 の 要 約
（ 研 究 成 果 の ま と め ）

氏　　　名　　　　藤本　香織

学位論文名　　肥大型心筋症における左房能動的機能の予後に対する付加的価値

学位論文の要約

【諸言・目的】

肥大型心筋症(HCM)においては左房の拡大に引き続いて左室の拡張障害の悪化が認められる。心エコー検査においては左室の非対称性肥大を来す肥大型心筋症においては左室の拡張障害を正確に反映し得る事は不可能であるため、左房機能を評価する事が患者のリスクの層別化に有用であると考えられる。この研究の目的は、肥大型心筋症患者における予後に関して左房機能を評価する事である。

【方法】

心エコー検査と心臓 MRI 検査を施行した肥大型心筋症患者 76 人を回顧的に抽出した。また、対照群として 26 人の健常人も抽出した。CMR は左室の構造的変化の調査目的で使用された。スペックルトラッキング法を用いた左房機能指標として、左室収縮の期間にみられる左房のストレインレートの 2 番目のピークのタイミングに基づいて左房機能を能動的ストレイン、受動的ストレインに分類した。また、心疾患イベントとしては心臓死、入院を必要とする心不全、心房細動と定義した。

【結果】

HCM 群では左房の能動的、受動的ストレイン共に control 群と比較して左房容積指数の増加に伴って有意に低下していた。フォローアップ期間の間(2.6±1.7 年)、14 人の患者が心不全による入院もしくは心房細動を発症した。左房の能動的ストレインは従来の心エコーパラメターや臨床的パラメター(年齢、性別、E/e’、左室の長軸方向のストレイン、左房容積指数)に加えて心イベント予測に関しての付随的な利益をもたらす事が認められた。心イベントは左房の能動的ストレインが 20.3%より小さい患者においてそれ以上の患者より、より頻回にみられた。

【結語】

肥大型心筋症の患者においては左房の能動的機能の消失は心イベントの増加に関連している可能性が示唆された。

なお、この学位論文の内容は、以下の原著論文に既に公表済である。
主論文：Fujimoto K, Inoue K, Saito M, Higashi H, Kono T, Uetani T, Aono J, Nagai T, Nishimura K, Suzuki J, Okura T, Ikeda S, Nakatani S, Higaki J: Incremental value of left atrial active function measured by speckle tracking echocardiography in patient with hypertrophic cardiomyopathy. Echocardiography : 2018 , DOI: 10.1111/echo.13886